令和７年度全国学力・学習状況調査結果について

郡山市教育委員会

1　調査の概要

（１）調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証してその改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査内容

①　教科に関する調査：（　）内は問題数

○　小学校：国語(全 14 問)、算数(全 16 問)、理科(全 17 問)

○　中学校：国語(全 14 問)、数学(全 15 問)、理科(公開 10 問、非公開 16 問、全 26 問)

②　質問調査

○　児童生徒質問・・・児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）

○　学校質問・・・・・学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

※　中学校理科及び質問調査は CBT（ICT 端末を用いたオンラインによる回答方式）で実施

（３）調査対象

①　小学校（義務教育学校前期課程を含む）：51 校（６年生 2,517 名）

②　中学校（義務教育学校後期課程を含む）：27 校（３年生 2,430 名）

2　調査結果の公表

○ 各教科における平均正答率（各教科の問題数に対する正答数の割合）、平均 IRT スコア（IRT に基づき算出される受験者の学力を表す数値の平均値）

※　IRT とは、国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。

○ 各教科における結果と課題及び改善策

○ 調査の結果と改善策（本市の特徴を表す項目を抜粋）

本調査の結果は、特定の教科の一部分であり、学校における教育活動の一側面を表したものではありますが、上記調査目的をふまえ、今後も児童生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった資質・能力を確実に育成できるよう、保護者や市民の皆様と連携し、本市学校教育の一層の充実に努めてまいります。

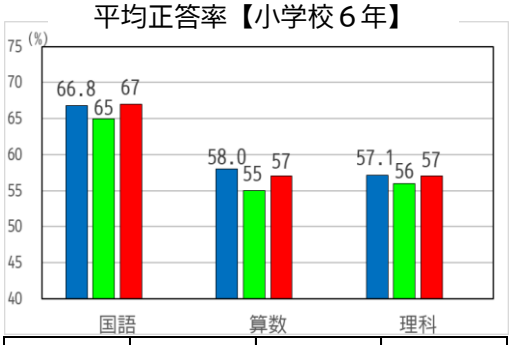
3　調査結果

（１）結果概要

郡山市児童生徒の平均正答率（中学校理科は平均 IRT スコア）は、以下のとおりです。
○小学校６年…国語・理科は全国平均と同程度で、算数は全国平均をやや下回っています。
○中学校３年…国語・理科は全国平均と同程度で、数学は全国平均をやや下回っています。

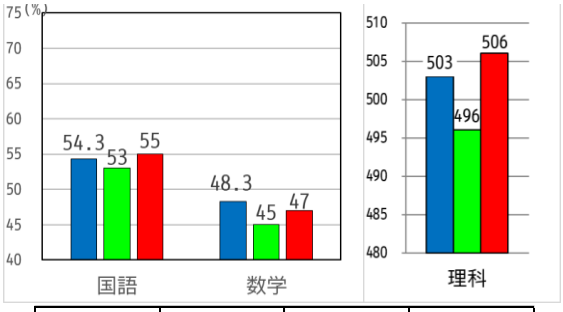
（２）各教科における平均正答率（中学校理科は平均 IRT スコア）

平均正答率【小学校６年】



教　科	国語	算数	理科
全国（公立）	66.8%	58.0%	57.1%
福島県	65%	55%	56%
郡山市	67%	57%	57%

平均正答率・平均 IRT スコア【中学校３年】



教　科	国語	数学	理科
全国（公立）	54.3%	48.3%	503
福島県	53%	45%	496
郡山市	55%	47%	506

（３）各教科における結果と課題及び改善策

① 本市における各教科の結果と課題、改善策

【小学校６年】

	結 果	課 題 と 改 善 策
国語	全体の平均正答率は、全国平均と同程度です。 「読むこと」の正答率は、全国平均を 1.4 ポイント上回っています。 「話すこと・聞くこと」の正答率は 2.3 ポイント、「書くこと」の正答率は 1.2 ポイント全国平均を下回っています。 記述式の問題形式での正答率は、全国平均を 2.1 ポイント上回っています。	● 「話すこと・聞くこと」については、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えたり、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめたりすることに課題があります。 【問題番号1 三(１)、三(２)】 → 聞き手として、どのような情報を求めているか、情報をどのように生かすか、そのためにどういった情報を相手から引き出すかを明確にするよう指導します。自分の考えをまとめる際には、話し手の考えと自分の考えとを比較して共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりするよう指導します。【「５＋３」②Ａ】
		● 「書くこと」については、図表などを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。 【問題番号2 二】 → 図表などを用いる際には、自分にとっても考えを深めやすく、相手にとっても理解しやすいものとなるよう、意図を明確にして書き表し方を工夫するよう指導します。
算数	全体の平均正答率は、全国平均をやや下回っています。 すべての領域において、全国平均を下回っており、特に「図形」の領域は 3.6 ポイント、全国平均を下回っています。 問題形式別にみると、短答式の正答率は令和５年度、令和６年度と２年連続で全国平均を１ポイント以上、下回っていましたが、今年度は全国平均と同程度になりました。 一方、記述式の正答率は、全国平均を 3.5 ポイント下回っています。	● 「図形」の領域では、台形の意味や性質について理解すること、基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題があります。 【問題番号2(２)、(４)】 → 図形を構成する要素（辺の長さや角の大きさ）やその位置関係に着目して図形を区別したり、基本図形の面積の求め方を基に様々な図形の面積の求め方を考察、表現したりする機会を設定します。問題の条件を変えるなどして、統合的・発展的に考察できるよう指導します。 【「５＋３」②Ｂ、４】
		● 「データの活用」の領域では、目的に応じて適切なグラフを選択して値の変化を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題があります。【問題番号1(２)】 → データの分析に関わる数学的活動をとおして、データの特徴に着目し、目的に応じて適切なグラフを選択して判断する機会を設定します。判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、書いたりできるよう指導します。 【「５＋３」②Ａ】

	結　果	課 題 と 改 善 策
理科	平均正答率は、全国平均と同程度です。 「粒子」を柱とする領域では 0.3 ポイント全国平均を上回っています。 「地球」を柱とする領域では 0.2 ポイント、「生命」を柱とする領域では 0.9 ポイント全国平均を下回っています。「エネルギー」を柱とする領域では、2.1 ポイント全国平均を下回っています。 観点別に見ると、思考・判断・表現を問う設問の正答率は全国平均と同程度ですが、知識・技能を問う設問の正答率は全国平均を下回っています。	● 「粒子」を柱とする領域では、電気の回路の作り方について、解決するための観察、実験の方法を発想し、表現することに課題があります。また、知識を他の学習や生活の場面でも活用して、知識を概念的に理解することに課題があります。【問題番号2（2）、（3）】 → 学習活動において、設定した目的を達成できるよう、自然の性質や規則性を適用したものづくりを行う活動を設定するなど、児童が自ら学習課題や実験の方法を発見し、表現することを指導します。【「５＋３」②Ｂ】 ● 「生命」を柱とする領域では、発芽に関する要因を挙げ、その要因を変える条件と変えない条件に区別しながら、予想や仮説を基に解決するための観察、実験の方法を考えることに課題があります。【問題番号3（3）】 → 実験を構想する場面で、変える条件と変えない条件を整理しながら解決方法を考える活動を設定し、より妥当性のある課題解決の方法を表現できるよう指導します。

【中学校３年】

	結　果	課 題 と 改 善 策
国語	全体の平均正答率は、全国平均と同程度です。 令和４年度小学校６年時は全国平均を下回っていましたが、今回は全国を上回っており、小中連携を強化しての指導の成果が見られます。 「話すこと・聞くこと」の領域は 0.9 ポイント、「書くこと」の領域は 0.7 ポイント全国平均を上回っています。 記述式の問題形式での正答率は、全国平均を 1.4 ポイント下回っています。	● 「話すこと・聞くこと」については、資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することに課題があります。【問題番号2四】 → 自分の立場や考えが明確になるように、考えを話す際の構成を工夫したり、相手に分かりやすく伝わるよう根拠を明確に示して話したりする活動を多く設定します。 ● 「書くこと」については、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことや、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることに課題があります。【問題番号1四、4二】 → 互いの考えの共通点や違いを比較・検討したり、根拠や理由、語句が適切に表現されているかを確かめたりする活動をとおして、説得力のある文章を書くことができるよう指導します。【「５＋３」②Ａ】

	結　果	課 題 と 改 善 策
数学	全体の平均正答率は、全国平均をやや下回っています。 「数と式」の領域は 0.2 ポイント、「データの活用」の領域は 0.3 ポイント全国平均をやや上回っています。「図形」の領域は 2.4 ポイント、「関数」の領域は 1.7 ポイント全国平均を下回っています。 記述式の問題形式での正答率は、全国平均を 2.1 ポイント下回っています。	● 「関数」の領域では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。 【問題番号8（2）】 → 日常生活や社会の事象を考察する場面において、事象を数学的に解釈（２つの数量の関係を関数と見なす）し、問題解決の方法を数学的に説明（アウトプット）することができるよう指導します。 【「５＋３」②Ｂ】
		● 「図形」の領域では、証明の場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することに課題があります。 【問題番号9（３）】 → 問題解決の過程や結果を振り返って、共通する性質や新たな性質を見出す機会を設定します。また、問題の条件を変えるなどして、統合的・発展的に考察できるよう指導します。 【「５＋３」④】
理科	平均 IRT スコアは、全国平均とほぼ同程度です。 問題別では、公開問題全 22 問中 14 問で全国の平均正答率を上回りました。 思考・判断・表現を評価する記述式の問題では、4 問中 2 問で全国の平均正答率を下回っています。	● 「粒子」を柱とする領域では、科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目したり、振り返りを表現したりすることに課題があります。 【問題番号1（６）】 → 身近な自然の事物・現象から見いだした問題を解決するために、自ら課題を設定するなど、理科を学ぶことの意義や有用性を実感できるよう指導します。 【「５＋３」①】
		● 「地球」を柱とする領域では、気圧の知識を概念として身に付けることに課題があります。 【問題番号9（２）】 → 見通しをもった探究の過程において、「自己の考えがどのように変容したか」、「身近な生活にどのようにつながっているか」等に着目した振り返りの場面を授業の中で設定します。 【「５＋３」④】

（４）質問紙調査の結果と改善策

① 児童生徒質問

ア 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が 90%以上、または全国と比べて割合が上回っているなど、成果が見られた主な項目

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
朝食を毎日食べていますか	92.8	93.7	91.3	91.2
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	92.2	91.0	93.0	92.6
友達関係に満足していますか	91.8	91.7	90.4	91.4
人が困っているときは、進んで助けていますか	94.9	93.7	92.2	90.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.8	97.2	96.7	95.9
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.2	96.4	96.5	96.6
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	93.5	93.0	91.0	91.6
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	90.0	88.0	92.7	91.5
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	92.9	92.2	93.1	92.2
あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか	91.5	89.8	93.1	91.5
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	93.5	91.9	92.0	91.9
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.4	90.4	90.9	88.3

イ 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が 50%以下、または全国と比べて割合が下回っているなど、課題が見られた主な項目

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）	34.8	39.4	25.6	29.5
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	28.9	30.0	21.8	21.7
新聞を読んでいますか	9.4	10.5	5.2	5.7

〈 分析 〉

【「よさ」が見られたところ】
- ○ 起床時間等の回答から、基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒が多いことが分かる。
- ○ 人間関係等の回答から、友達との関係を良好に保とうと心がけ、友達関係に満足している児童生徒が多いことが分かる。
- ○ 授業についての回答から、友達と協力しながら課題を解決していることが分かる。

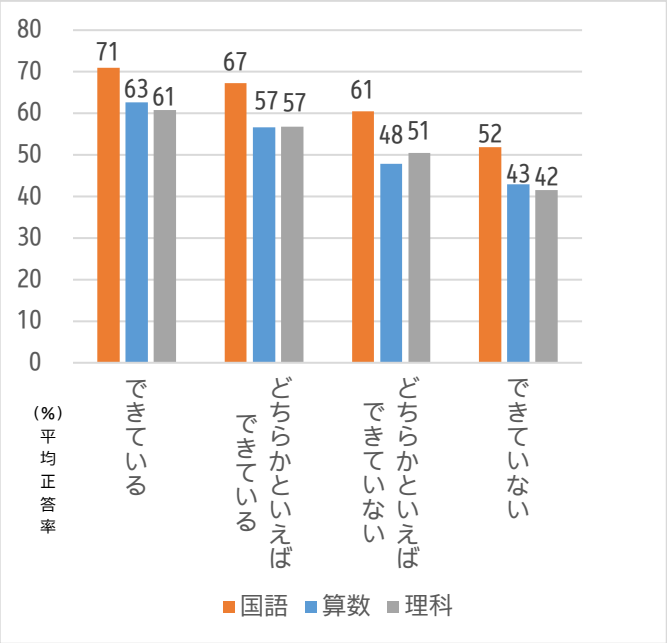
【「課題」が見られたところ】
- ○ 地域の大人との関わりに関する回答から、地域の人材の活用が課題である。
- ○ 理科が好き、得意と回答した児童生徒は多いが、将来の夢と結びついていない児童生徒が多い。
- ○ 校種が上がるにつれて、新聞を読む習慣が薄れていく傾向がある。

② 児童生徒質問と教科に関する調査結果のクロス集計

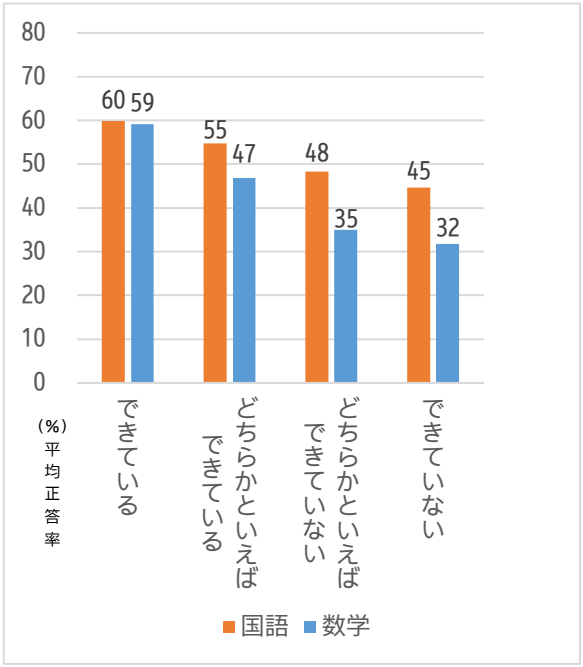
○ 児童生徒質問の回答状況と各教科の平均正答率のクロス集計を実施した。縦軸が平均正答率を表している。

質問 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

ア 小学校の例

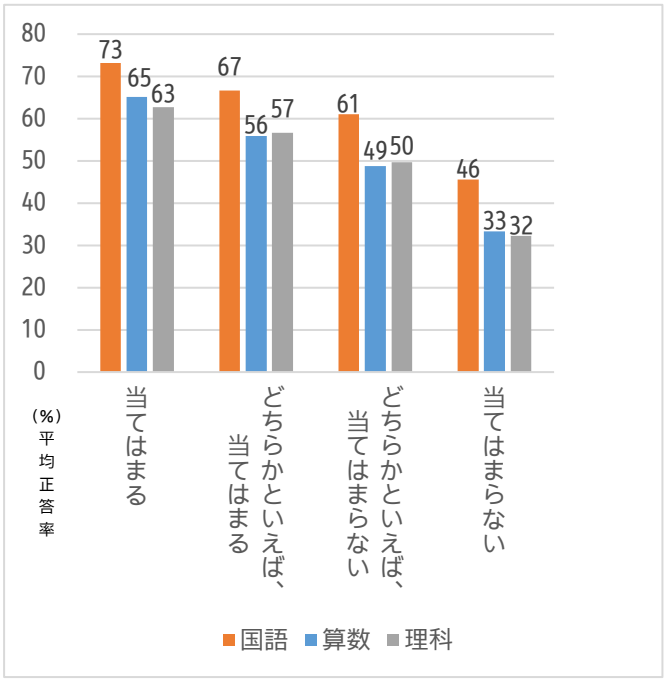


イ 中学校の例

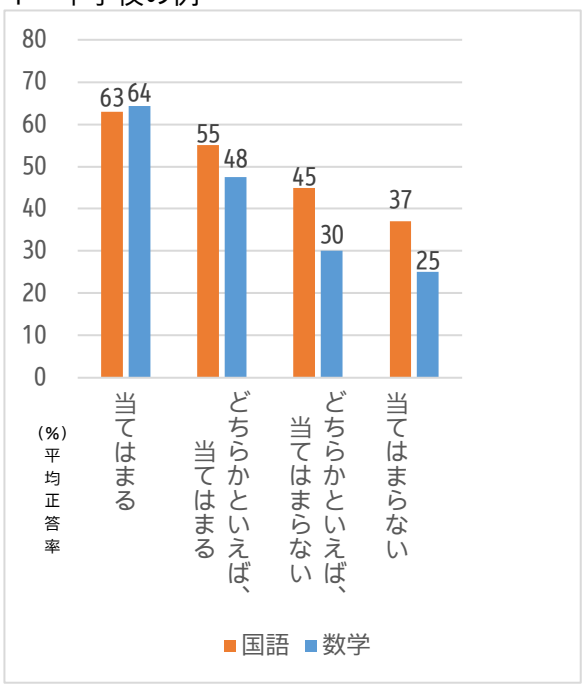


質問 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

ア 小学校の例



イ 中学校の例



〈 分析 〉

自分で学び方を考え工夫すること、また、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒ほど正答率が高い傾向にあることから、以下のような学習活動を推進していきます。

○ 児童生徒が「問い」をもち、「考え出す」ことができる「めあて」を設定する。

○ 自分の考えをもつ場面と、考えを友達に説明したり、文章にまとめたりする時間を設ける。

③　学校質問

ア　「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が90%を上回っている主な項目

質　問　事　項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか	100.0	99.6	100.0	99.2
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立していますか	100.0	97.1	96.3	96.0
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100.0	97.5	96.3	92.1
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	98.1	96.6	100.0	92.8
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	98.1	90.6	96.2	85.9
前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）の ICT 機器を活用した授業を１クラス当たりどの程度行いましたか（週３回以上）	96.1	94.2	96.3	92.5
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか（ほぼ毎日）	96.1	84.8	92.6	82.8

イ　「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が全国平均を大きく上回っている主な項目

質　問　事　項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか	90.2	65.3	85.1	71.7
コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映していますか	100.0	86.4	96.3	83.4
教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか（週３回以上）	76.5	61.4	66.6	55.9
児童生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、不登校生徒に対する学習活動等の支援(希望する不登校生徒に対する授業配信を含む)でどの程度活用していますか（週３回以上）	27.4	24.2	59.2	39.3

〈　分析　〉

○　各中学校区の小中連携が進み、教育課程に関する共通の取組が推進された。
○　コミュニティ・スクール等の仕組みを活用して、地域に開かれた学校づくりが推進された。
○　ICT 機器を活用した教え方の変革、学び方の変革が推進された。
　　今後、さらに児童生徒同士のやりとりによる対話的な学びの充実が期待される。
○　中学校において特に、不登校生徒への ICT 機器の活用が進んでいる。

＊　文部科学省が公表している資料については、国立教育政策研究所ウェブページをご覧ください。
国立教育政策研究所　『全国学力・学習状況調査』
（URL　https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html）
令和７年度調査

- 調査質問・正答例・解説資料について
- 報告書（授業アイディア例含む）・調査結果資料について
- 授業アイディア例一覧
- 学習指導の改善・充実に向けた説明会